

横尾忠則の肉体派宣言展

Yokoo Tadanori: Be Physical!

会期

2025年5月24日(土)ー8月24日(日)

開館時間

10:00ー18:00

※入場は17:30まで

休館日

月曜日

※ただし7月21日(月・祝)、8月11日(月・祝)は開館、7月22日(火)、8月12日(火)は休館

会場

横尾忠則現代美術館



ポスターデザイン: 横尾忠則

展覧会について

横尾の芸術と肉体は密接に関わってきました。それは単に人のかたちを描くだけではなく、理性や思考を手放し、体の赴くままに筆をふるうという横尾の制作態度そのものにも現れています。

本展ではまず「描く肉体」として、横尾の身体性を大きく反映した表現主義的な技法や横尾流朦朧体が用いられた作品を、また「描かれる肉体」として三島由紀夫やリサ・ライオンなどモチーフに選ばれてきた多様な身体をご紹介します。主体・客体両方の視点から、横尾の創作における肉体について考える機会になれば幸いです。最後の「肉体を超えて」いく世界には何が待ち受けているのでしょうか。

いわゆる画家宣言以来、横尾が体当たりで築き上げてきた創造の世界をぜひご体感ください。

描く肉体

横尾は頭で考えるのではなく、肉体が赴くままに制作することの重要性を常々語っています。表現主義的な技法を用いた《息子からのポストカード》(1982年)、図と地の境界がわからないほどに筆跡が踊る《Guardian Angel》(1983年)、利き手を使わずに描いた《Tajima》(1983年)など、画家宣言直後から、横尾の試行錯誤は始まっています。衣服を脱ぎ捨てたモデルたちが森の中でパフォーマンスする姿を捉えた《Maurizio, Sandro and Nicola in Varese, June 1, 1984 (No.2)》(1984年)、細長く切った帯状のキャンバスを画面に付けた《安らかに眠れ》(1987年)などには、いずれも身体へ向けられた強い意識や横尾の動いた跡を見て取ることができます。2019年頃には、加齢に伴って自分自身の身に起きた難聴と腱鞘炎さえ味方につけて横尾流朦朧体という新たな技法を生み出しました。

このように一貫した肉体への横尾の意識は、制作年や技法によらないランダムな作品展示によってさらに強調されるでしょう。本展は建物の2F、3F、4Fへと章が進んでいきますが、横尾の好きなダンテの『神曲』になぞらえるならば、カオスに満ちた最下層のここはまさに「地獄」。創作の中でもがいてきた肉体そのもののパワーを感じてください。



左：
《Guardian Angel》
1983年
234.6×169.0×5.0 cm
アクリル、塗料、コラージュ、電球・板
横尾忠則現代美術館蔵

右：
《Tajima》
1983年
40.5×27.0 cm、木版・紙
横尾忠則現代美術館蔵



《安らかに眠れ》
1987年
166.0×261.0 cm、油彩、布・布
横尾忠則現代美術館蔵



《三人の患者》
2021年
130.3×162.1 cm、油彩・布
横尾忠則現代美術館蔵

描かれる肉体

前章では描く側の肉体を取り上げましたが、この章で注目するのは、描かれる側の肉体です。

《Lisa Lyon in Izukogen, March 23, 1984 (No.3)》(1984年)では女性ボディビルダーの先駆的存在だったリサ・ライオンをモデルにしているように、横尾の作品にはしばしば理想的な人体が表されてきました。横尾とリサはコラボレーションによって多彩なジャンルの作品を生み出していますが、その舞台の多くは人の手が入っていない自然のただ中であり、文明から解放された人間の根源的な生命力や創造力を追求しました。

また、《バリ島奇譚》(1995年)や《水+火=血》(1992年)では、自然の強暴な一面を象徴する生き物に人が襲われる様や、磔にされた身体の一部を見せるなど、体があるからこそその苦しみや痛みと言及しています。《Art is not Produced by Suffering》(1985年)のタイトルと主要モチーフである磔刑図の組み合わせには、芸術に対する横尾のどのような考えが現れているのでしょうか。一方、《和楽》(2004年)のように、浮世絵から引用しつつ、女性の身体を独特の構図や配色を用いて描いた表現もあります。

当館の3Fを会場にしたこの章は、靈魂が天国へ向かう前に耐え忍びながら審判を待つという「煉獄」に相当するのかもしれませんが。

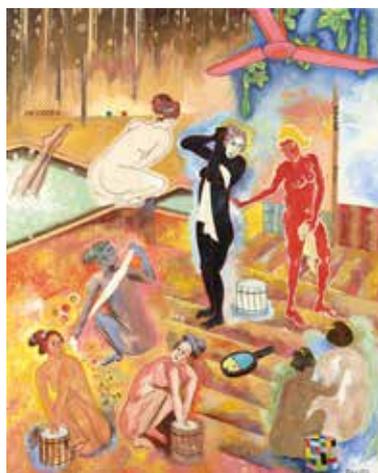


左：
《Lisa Lyon in Izukogen, March 23, 1984 (No.3)》
1984年
227.2×182.0cm、油彩・布
横尾忠則現代美術館蔵

右：
《水+火=血》
1992年
193.8×130.8 cm、アクリル、マーカー・布
横尾忠則現代美術館蔵



《バリ島奇譚》
1995年
194.2×194.3 cm、油彩・布
横尾忠則現代美術館蔵



《和楽》
2004年
227.0×182.0 cm、油彩・布
横尾忠則現代美術館蔵

肉体を超えて

本展では、当館 4F にあるコレクションギャラリーも会場のひとつに含まれます。最上階に位置するこの場所は、言うなれば「天国」。「地獄」、「煉獄」と巡って見てきた肉体がついに消えて、魂のみが行き着く先になります。生気を示すものは何も無く、人っ子一人描かれていない真っ黒な Y 字路シリーズに囲まれた静かな空間になるでしょう。そこに唯一存在する肉体と言えど鑑賞者のそれに違いありません。それまで本展の横尾作品を見ることで獲得してきた肉体への意識は、ここで初めて鑑賞者自身に向かう…のかもしれない。



《黒いY字路 3》
2011年
112.0×145.6 cm、油彩・布
横尾忠則現代美術館蔵



《黒いY字路 4》
2011年
112.0×145.5 cm、油彩・布
横尾忠則現代美術館蔵



《黒いY字路 5》
2011年
112.2×145.7 cm、油彩・布
横尾忠則現代美術館蔵

出品点数 絵画 72 点、版画 9 点 ほか

横尾忠則の肉体派宣言展

Yokoo Tadanori: Be Physical!

2025年5月24日(土)―8月24日(日)

開館時間 10:00―18:00 ※入場は17:30まで

休館日 月曜日 ※ただし7月21日(月・祝)、8月11日(月・祝)は開館、7月22日(火)、8月12日(火)は休館

主催 横尾忠則現代美術館([公財]兵庫県芸術文化協会)、「瀬戸芸美術館連携」プロジェクト実行委員会、公益財団法人福武財団、独立行政法人日本芸術文化振興会、文化庁

協賛 株式会社中川ケミカル

協力 ホテルオークラ神戸

観覧料 一般800(600)円、大学生600(450)円、70歳以上400(300)円、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体割引料金

※障害者手帳等をお持ちの方は各観覧料金(ただし70歳以上は一般料金)の75%割引

※障害者手帳等をお持ちの方1名につき、介助者1名無料

※割引を受けられる方は、証明できるものをご持参のうえ、会期中美術館窓口で入場券をお買い求めください

ひょうごプレミアム芸術デーの期間中(7月9日～7月13日、7月15日)は、どなたでも無料でご観覧いただけます

相互割引

■兵庫県立美術館(特別展またはコレクション展)のチケット半券→当館企画展が団体割引料金に

■当館企画展のチケット半券→兵庫県立美術館(特別展またはコレクション展)が団体割引料金に ※会期中のチケット半券に限り有効

※状況に応じて予定が変更になる場合があります。最新情報は当館ウェブサイトをご覧ください ※本展は予約制ではありません

ひょうごプレミアム芸術デー特別イベント

音遊びの会と大友良英 in Y+T MOCA

神戸を舞台に活動する「音遊びの会」は、知的な障害のある人を含むアーティストの大集団。大友良英さんは、その自由な即興演奏に惚れ込み、活動初期からメンバーのひとりとして共演を重ねています。

結成20周年を迎えます。ますます自由でユニークな表現を繰り出す「音遊びの会」のいまを、ぜひ体感してください。

・日時:7月12日(土) 19:00～20:00(開場 18:30)

※閉館後のイベントです(展示会場は18:00閉場)

・会場:当館オープンスタジオ

ご来場の際は公共交通機関をご利用ください

・出演:音遊びの会、大友良英

・入場料:無料(要申込)

・定員:100席(申込多数の場合は抽選)



申込フォームはこちら

●申込期間:6月1日(日)～6月13日(金)

音遊びの会
撮影:佐伯慎亮



大友良英
撮影:佐藤類



関連イベント

キュレーターズ・トーク

講師：当館スタッフ

日時：6月21日（土）、7月19日（土）、8月16日（土） いずれも 14:00 - 14:45

会場：当館オープンスタジオ、参加無料

■担当学芸員が本展の見どころを分かりやすく解説します

※イベントの詳細や、その他のイベント情報については当館ウェブサイトをご覧ください

「瀬戸芸美術館連携」プロジェクトとは

2025年4月18日から開催される「瀬戸内国際芸術祭（瀬戸芸）2025」の広域連携事業として、瀬戸芸の会期中を中心に、香川・岡山・兵庫3県の8つの美術館で、日本人の現代アーティストによる作品を中心とした展覧会を行います。香川県4館（香川県立ミュージアム、高松市美術館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 MIMOCA、直島新美術館）、岡山県2館（岡山県立美術館、大原美術館）、兵庫県2館（兵庫県立美術館、横尾忠則現代美術館）で開催されます。瀬戸芸とほぼ同時期に大阪・関西万博が開催されることから、海外からのお客様にも瀬戸内に多く来ていただけることを期待し、最先端の現代アートやそれぞれの地域の文化・魅力を発信するため、8館共通の割引チケットの発売や周遊ツアーも催行します。これにより、瀬戸内からアートのメッセージを発信し、瀬戸内がアートの聖地として位置づいていくことを目指します。

※ 当館開催の展覧会では、「横尾忠則の肉体派宣言展」と「復活!横尾忠則の髑髏まつり」（次回展）が対象です

お問合せ

横尾忠則現代美術館

〒657-0837 兵庫県神戸市灘区原田通3-8-30

tel. 078-855-5607(総合案内) fax. 078-806-3888

学芸担当：鈴木 慈子〈suzuki_yoshiko@ytmoca.jp〉

広報担当：早水 千尋〈hayamizu_chihiro@ytmoca.jp〉

画像データは当館ホームページ(<https://ytmoca.jp>)のプレス専用ページからお申込みいただけます
ホームページに掲載されていない画像は、上記連絡先までご請求ください